

新技術・新工法及びリサイクル製品審査表

受 付 N o	ME220930-37	申請年月日	平成22年9月30日	
新技術名称	サンKクリア工法によるL型擁壁設置工法			
開発業者名	会 社 名	ランドス株式会社 山陰営業所 (製造先:阪神工業株式会社 上段工場)		
	担当部署		担当者	山上 淳史
	住 所	鳥取県倉吉市清谷町2丁目20番地		
	T E L	0858-48-1820	F A X	0858-48-1821
	E-mail	sanin-ei@landes.co.jp		

概要

ツメ付油圧ジャッキとらくビタ(高さ固定ボルト)を用いて、製品底版を基面より浮かせて先行施工し、開口部よりコンクリートを後打ちして、製品底版と基面との一体化を図るプレキャストL型擁壁の設置工法。

このことにより、敷モルタルによる高さ調整が不要ことから、省力化及び施工工程の簡素化が図られる。
また、製品設置時に製品底版と基面の間に隙間が確保されることから、手足の挟まれ事故が防止できる。

【施工状況】

①製品設置状況



②ツメ付油圧ジャッキ、らくピタ(高さ固定ボルト)による高さ調整



③製品据付完了



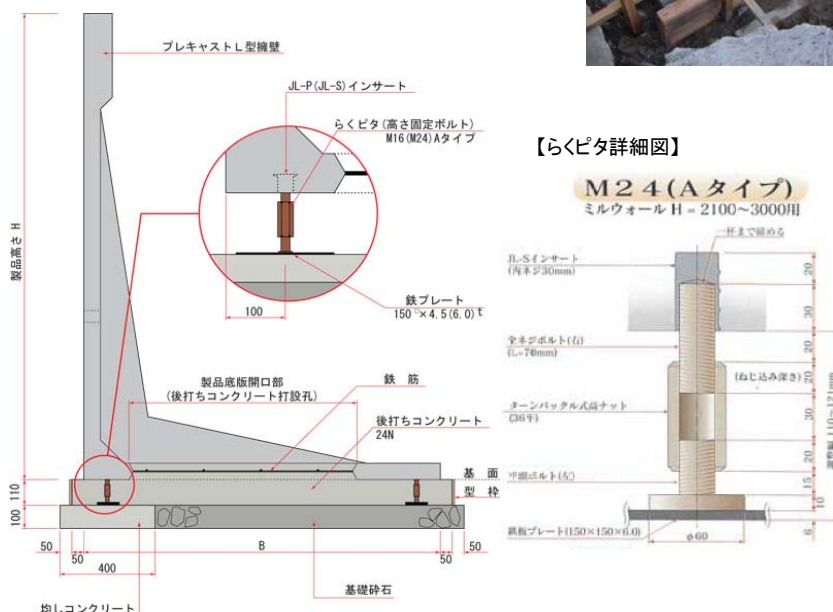
④後打コンクリートの打設



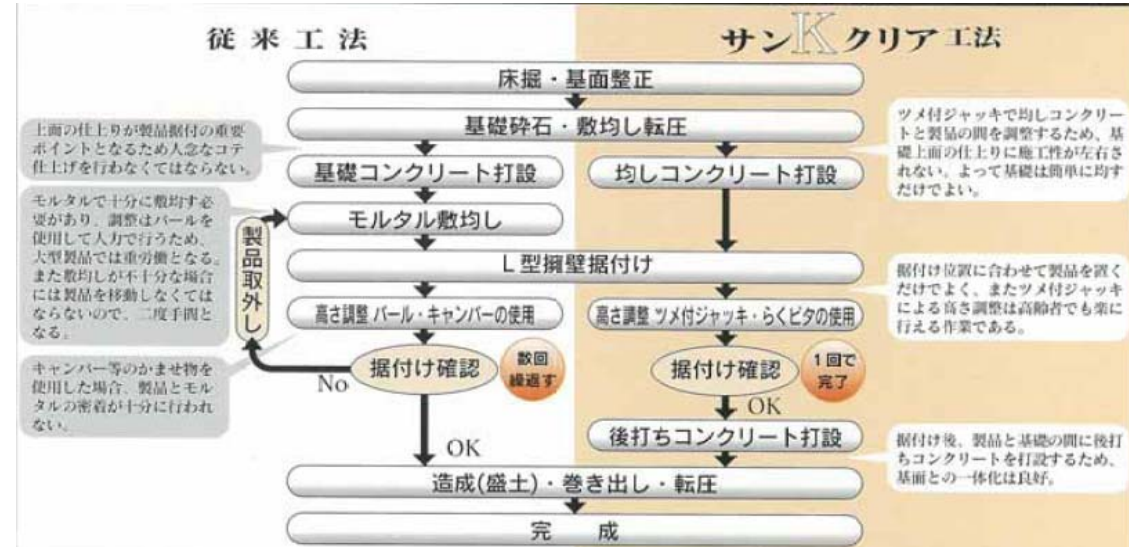
⑤埋め戻し転圧状況



【製品底版部の写真】



【従来工法との施工手順の比較】



機能性の向上

- 製品の据付けが先行するため、連続据付け施工が可能であり、工期の短縮が図られる。
- らくピタ(高さ固定ボルト)で高さを微調整することから、熟練工の技能がなくても精度の高い設置ができるとともに、L型擁壁設置時に隙間が確保されているため、手足の挟まれ事故のない安全施工ができる。
- 基面とL型擁壁の間にコンクリートを後打ちするため、基面と製品が一体化された構造物となることで、品質(強度面)が向上する。

在来工法・製品と比較した経済性

- 在来工法と比べて、敷モルタルによる高さ調整が不要ことから、省力化及び施工工程の簡素化が可能となり、コスト縮減が図られる。

	【新工法】 サンKクリア工法	【在来工法】 通常のL型擁壁	コスト比較
直接工事費 (擁壁1m当たり)	79,170円	82,800円	4.4%縮減

資源のリサイクル性

- コンクリートの細骨材にフェロニッケルスラグ及び廃ガラスを使用しており、リサイクル性の向上が図られる。

公共工事における汎用性

- 鳥取県内において、公共事業で10件の施工実績がある。
- (財)国土開発技術研究センターによる技術審査証明済(第1103号)
- 標準施工歩掛はないため、協会歩掛(サンKクリア工法研究会)を使用することになる。

他機関等での登録

- ONETIS登録(登録No CG-990005-A)

特許・実用新案

- 特許第2723789号(コンクリートブロック及びその敷設工法)
- 特許第3311552号(底版を有するプレキャストコンクリート製品の設置構造)

事前審査結果(新技術・新工法及びリサイクル製品審査基準)

- ①ニーズとの適用性「A」、②技術の妥当性「A」、③実地条件下での適応性「A」
- ④活用効果の発現性「B」、⑤公共事業における汎用性「B」

事務局現地確認等

- ・当工法における新技術は擁壁底版部分(地中に埋設)であるが、現時点で施工中の箇所がないため、確認はできていない。